

学校見学（2）

前回、大学の学校見学についての注意点等を記しましたが、今回は専門学校の個性について記してみましよう。文部科学省が発表した『平成28年度学校基本調査』によれば、全国にある専門学校は2,817校(国立9校、公立186校、私立2,622校)です。そのうち生徒が自宅から通学できる東京都、神奈川県内にある専門学校は460校(内訳は東京都357校【国立1校、公立8校、私立348校】、神奈川県103校【公立5校、私立98校】)です。各専門学校の学科数を合計すると4,569学科(国立9学科、公立224学科、私立4,336学科)あり、そのなかで一番学科数が多いのは、医療分野の1,325学科、次いで文化教養分野の730学科、商業実務分野671学科、衛生分野608学科と続いています。生徒数は全国で589,050人(国立309人、公立25,251人、私立563,490人)となっています。

460校の専門学校のなかから1校を選ぶわけですが、どのようなものが選択の要因に挙げられるのでしょうか。専門学校を見学する場合も、大学・短大と同様に事前にポイントを設定する必要があります。

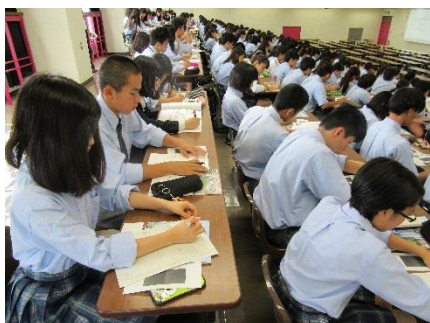
○学校の個性 ○募集定員と入学者数 ○出願期間 ○選考方法と前年度の競争倍率
○推薦制度 ○併願制度の有無 ○納入金と教材費 ○就職実績 ○取得資格 ○設備
○年間授業時数 ○時間割 ○専任教員数 ○中退者数(中退率) ○アルバイトの有無
などが考えられます。例えば、近年専門学校の中では定員割れの学校が少なからず見られます。そのため早くに出願させ青田買いのような推薦は注意が必要です。納入金に関しては、専門学校は技術・技能を身につけるので教材費、実習費が一般的に結構かかります。東京都専修各種学校協会の調べ(平成27年度)では、加盟している専門学校の初年度納入金の平均は、122万9000円です。分野として低いのは医療看護系で88万円、高いのは鍼灸あんま系で160万円を超すそうです。だいたい120万円前後はかかると思ってください。

専門学校で同じ分野の学校で実習費に大きく差のこともあります。例えば、調理学校の場合、一匹の鯛を下ろす場合、一班の班員が2～3人で行っているのと、5～6人で行っているのでは大きく実習費に差がでます。しかし技術修得という点では、このようなケースでは大人数で学ぶより少ない人数で学ぶ方が良いわけです。

学校の個性と記してありますが、一般的に専門学校の個性はわかり難いといわれます。自分の目指している業界の人に専門学校のことを尋ねると、学校の個性みたいなことを話してくれることがあります。また、「何処の学校がよいですか」という質問を何人かの人に尋ねると、「○○専門学校がいいよ」、「○△■学校は伝統があって有名だよ」という回答をもらうことができると思います。例えば、美容・エステ関係に資生堂美容技術専門学校が東京の板橋にあります。この学校は校名からも分かるように資生堂が美容師を養成するためにつくった学校で、資生堂がバックアップしています。技術修得や資格取得のた

め、他の美容学校より厳しい(?)といわれますが、反面非常に面倒見がよく、放課後まで丁寧に指導してくれるという話を聞いたことがあります。また、東京の高田馬場にある日本美容専門学校は、業界の人たちが「日美」(ニチビ)と称するぐらい有名な美容学校です。この学校は1947(昭和22)年に誕生した日本美容師会が設立した学校で、「美容を通じて近代の叡智を築く」「日美は美容業界の適塾である」という建学の精神に基づき、美容を文化としてとらえ、美容教育を展開しています。自由な校風のなかで学生の個性、感性を伸ばす人材育成を図るため、他校にない美容心理学、芸術鑑賞、合宿などの授業があります。

専門学校への進学は、ほぼ就職だと思って学校見学に行き、学校の個性を感じてきてください。3年次生は、モラトリアム的な進路選択で後悔しないようにしましょう。



6月8日(木) 2年次生全員は、横浜市青葉区にある國學院大學たまプラーザ・キャンパスを訪れ、1日上級学校訪問を実施しました。昨年度は、初めて産能大学を訪問し、今回が2回目の上級学校訪問でした。國學院大學は1882(明治15)年に「皇典講究所」として創立され、その後の専門学校令により「私立国学院」、文部省告示により「私立國學院大學」と改称しました。

1920(大正20)年大学令により大学に昇格しましたが、このとき私立大学として他に認可されたのは慶応義塾、早稲田、明治、中央、日本、法政、同志社の7大学でした。創立以来130年の伝統を持ち、歴史、国文学、神学等を攻究する学校で有名な大学です。

当日は國學院大學の先生から学校案内、講義、キャンパス内での昼食など、1日大学生の気分を味わいました。講義では『心理学の基礎』や『オリンピックの多面性』など、高校の授業では学ぶことのない内容を聞くことができ、科学的な見方や専門的に学ぶことの意義や、基礎学力の重要性など再認識したことなど、講義後、今回の上級学校訪問がよかったという意見、感想が多く寄せられました。高校2年次は、自らの進路を考える上で一番大切な時期です。大学進学を考えている人は、3年次になってから大学に行こうと思っても希望の大学に進学できなかつたりします。2年次は大切な時期です。修学旅行から帰ってきたら受験モードに入ることを勧めます。

1年次の生徒全員は、夏休みに「総合的な学習の時間」を利用して官公庁、金融機関、一般企業、商店、工場、研究所等にインタビューに行きます。これはいままで総合学科の2年次『コミュニケーション』という特色科目のなかでインタビュー実習として実践してきました。今年度から単位制普通科になっても、このインタビューを本校の特色として位置づけています。卒業生の話を見ると、修学旅行よりインタビュー実習の方が思い出になっているという声が多くあります。本校の「総合的な学習の時間」を、語り継がれる授業にしたいと思っています。